

内外の化学繊維生産動向

— 2015年 —

2016年3月15日

日本化学繊維協会

本資料の2015年の数値は、至近の発表値をもとに日本化学繊維協会
で推定したものです。

1. 世界の繊維生産

表-1 世界の主要繊維の生産

(1000ト)

	全繊維	化学繊維		綿	羊毛	絹	
		合繊	セルロース				
2009	65,523	42,392	39,379	3,013	21,896	1,108	127
2010	73,825	47,685	44,424	3,261	24,872	1,128	140
2011	79,485	50,929	47,336	3,592	27,284	1,140	132
2012	83,351	55,416	51,133	4,283	26,670	1,133	132
2013	86,378	58,801	54,020	4,781	26,280	1,159	138
2014	89,411	61,889	56,829	5,060	26,230	1,153	138
2015	90,644	66,520	61,334	5,186	22,890	1,096	138
15/14(%)	1.4	7.5	7.9	2.5	-12.7	-5.0	-0.1
構成比(%)	100.0	73.4	67.7	5.7	25.3	1.2	0.2

日本化学繊維協会推定

綿、羊毛は季節年度

- 2015年の世界の主要繊維生産（推定）は前年比1%増の9,064万トと史上最高を記録した。
- 化学繊維は前年比8%増の6,652万トと過去最高となった。うち合繊（オレフィン繊維を除く）は8%増の6,133万ト、セルロース繊維（アセテートトウを除く）は3%増の519万トとなった。
- 化学繊維の生産は、2009年以降7年連続で拡大した。繊維全体に占めるシェアは綿の生産減の影響もあって73%と、前年の69%から上昇した。
- 天然繊維は、綿、羊毛共に減少の見込み。綿は主要生産国である中国、米国がいずれも2桁減で、全体で13%減の2,289万ト。羊毛は、主要産毛国のオーストラリアが減産の見通しであることから、世界全体で5%減と減少の見込み。

図-1 世界の主要繊維の生産

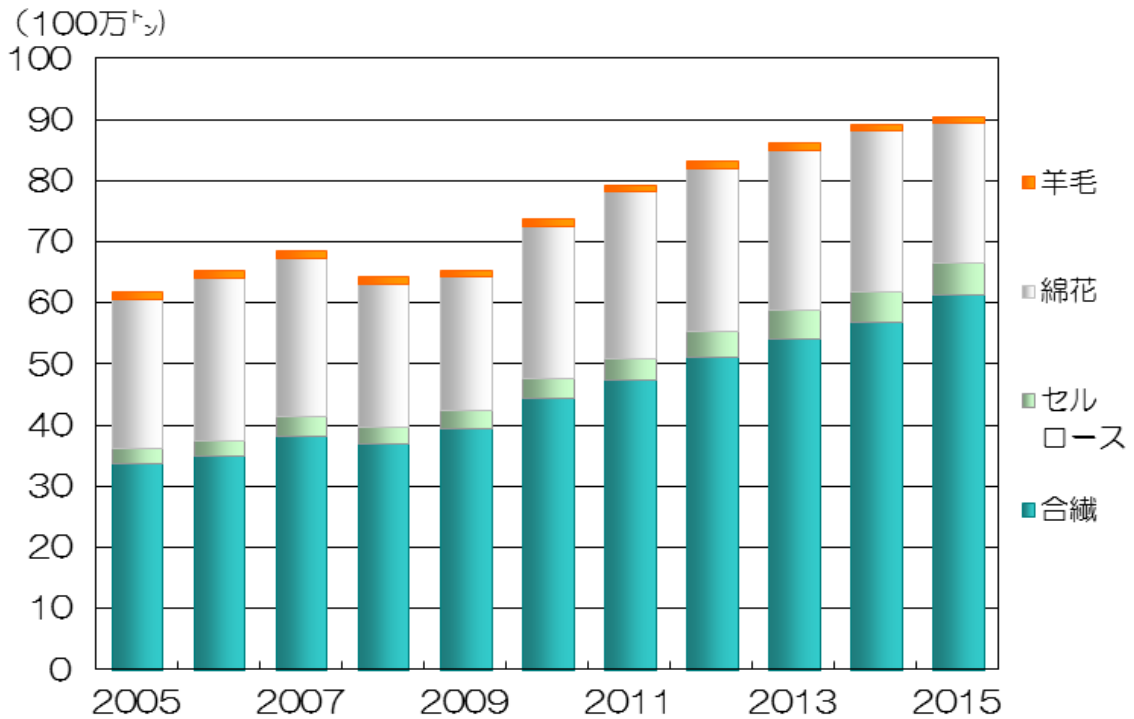
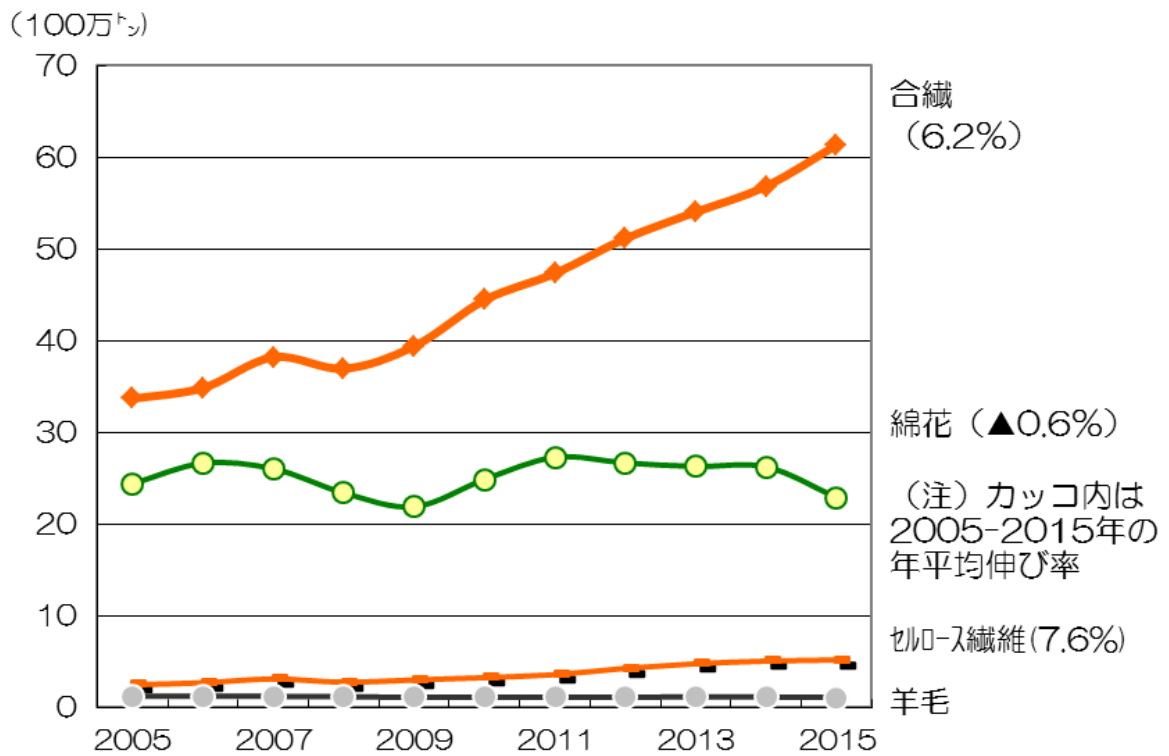


図-2 世界の主要繊維の生産推移



2. 世界の化学繊維生産

- 主要国・地域別に化学繊維生産をみると、最大生産国の中国が前年比12%増と増加したのに対して、その他の主要生産国・地域はいずれも減少し、中国への生産拠点の一極集中が続いている。

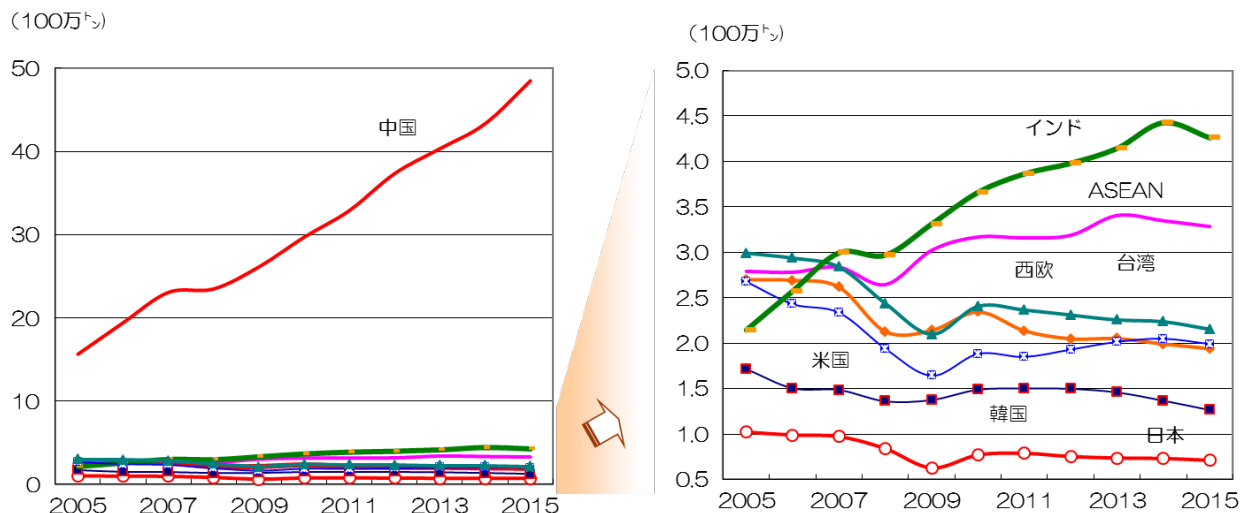
表-2 主要国・地域の化学繊維生産(2015年)

地域	ポリエステル		ナイロン	アクリル	合 織 計	セロース 計	化 織 計	構成比 (%)
	フィラメント	ステープル	S+F	S				
日 本	128	134	90	142	647	64	711	1.1
	-5.9	-8.4	-8.6	0.5	-3.4	2.8	-2.9	
韓 国	617	497	106	44	1,264	-	1,264	1.9
	-6.4	-8.4	-7.8	-12.6	-7.5	-	-7.5	
台 湾	920	529	310	55	1,814	126	1,940	2.9
	-0.4	-2.9	-7.8	-11.1	-2.8	1.0	-2.6	
中 国	30,147	10,461	3,083	725	44,916	3,567	48,483	72.9
	13.8	12.4	17.2	7.1	12.5	4.4	11.9	
ASEAN	1,300	1,133	143	115	2,691	593	3,284	4.9
	-3.4	-1.2	-2.3	-5.8	-2.6	1.2	-1.9	
インド	2,513	1,134	108	104	3,866	393	4,259	6.4
	-7.0	3.2	4.9	11.1	-3.5	-6.6	-3.8	
米 国	650	629	556	-	1,967	24	1,991	3.0
	1.9	-3.7	-7.8	-	-2.9	-2.9	-2.9	
西 欧	363	507	332	485	1,754	399	2,153	3.2
	-8.9	-1.9	-5.4	-3.2	-4.4	-0.9	-3.7	
世界計	37,026	16,086	5,055	1,859	61,334	5,187	66,521	100.0
	9.4	6.1	5.3	0.0	7.9	2.5	7.5	

(注) 1.上段は生産量、下段は前年比(%) 2.推定を含む
3.オレフィン繊維、アセテートトウを含まない

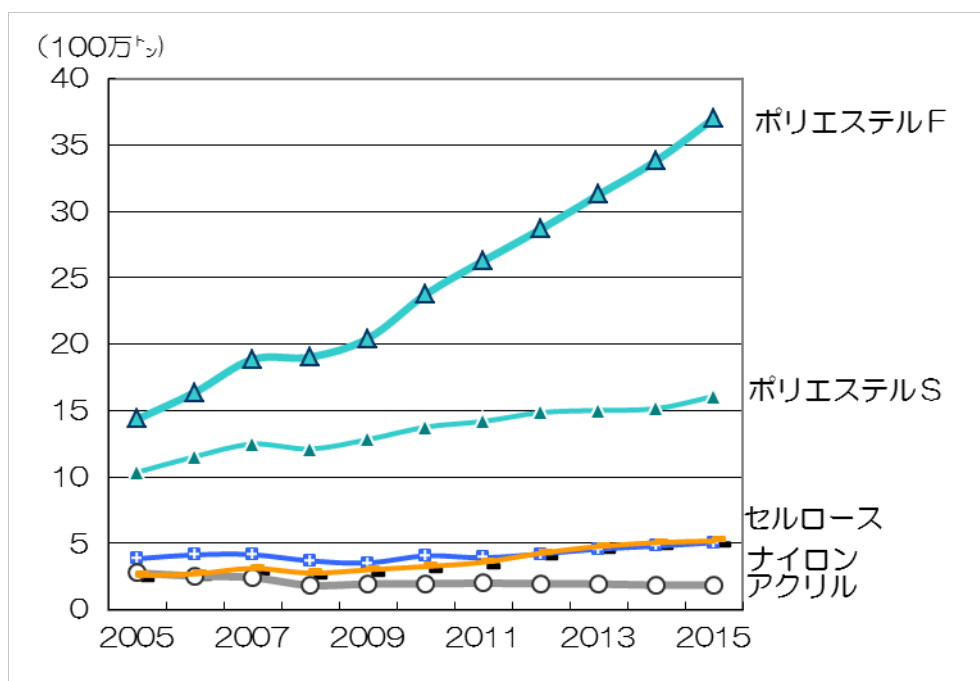
- 中国は12%増の4,848万トと3年ぶりの2桁増となった。世界生産に占める割合は他の主要生産国・地域の多くで生産減となったことから前年の70%から73%に拡大した。品種別ではナイロンが17%増、ポリエステルが全体で13%増と大幅に増加したほか、アクリルが7%増、セルロース繊維が4%増と主要品種のいずれも増加した。
- その他の主要生産国・地域はいずれも減少した。日本、台湾、ASEAN、インド、米国、西欧が2~4%前後の減少、韓国が8%減となった。

図-3 世界の主要国・地域の化繊生産



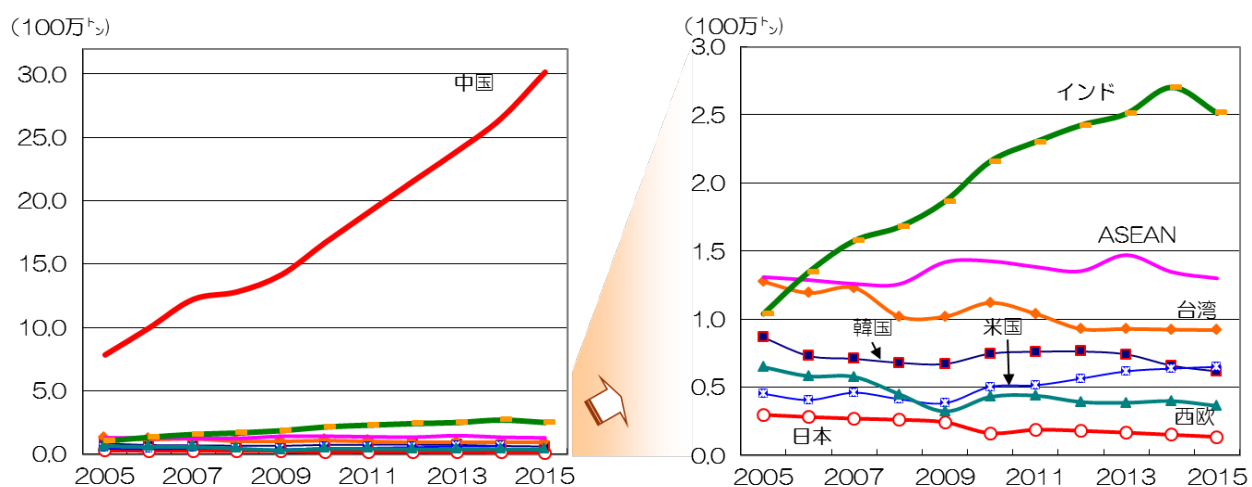
- 主要品種別にみると、ポリエステルおよびナイロンは中国の大幅増の影響で5~9%の増加、アクリルステープルは横ばいとなった。
- ポリエステルは、フィラメントが前年比9%増の3,703万ト、ステープルが6%増の1,609万トであった。フィラメント、ステープルをあわせたポリエステルの化繊生産に占める割合は80%と2014年から1ポイント上昇した。
- ナイロンは5%増の505万ト。うちフィラメントは中国が大幅に増加（17%増）したが、その他の主要国・地域はいずれも減少したことから、全体では5%増となった。同ステープルは1%増。
- アクリルSは横ばいの186万ト。中国（7%増）、インド（11%増）が増加、日本が微増（1%増）となったが、西欧（3%減）などその他の国・地域は減少した。
- セルロース繊維（レーヨン、アセテート、キュプラ）は3%増の519万ト。中国の増加幅は縮小したものの増加傾向を続け、日本、台湾が増加した一方、欧米およびインドは減少した。同繊維の2005~2015年の年平均伸び率は7.6%で、合繊の6.2%を上回っている（図-2）。

図-4 世界の主要化繊品種の生産推移



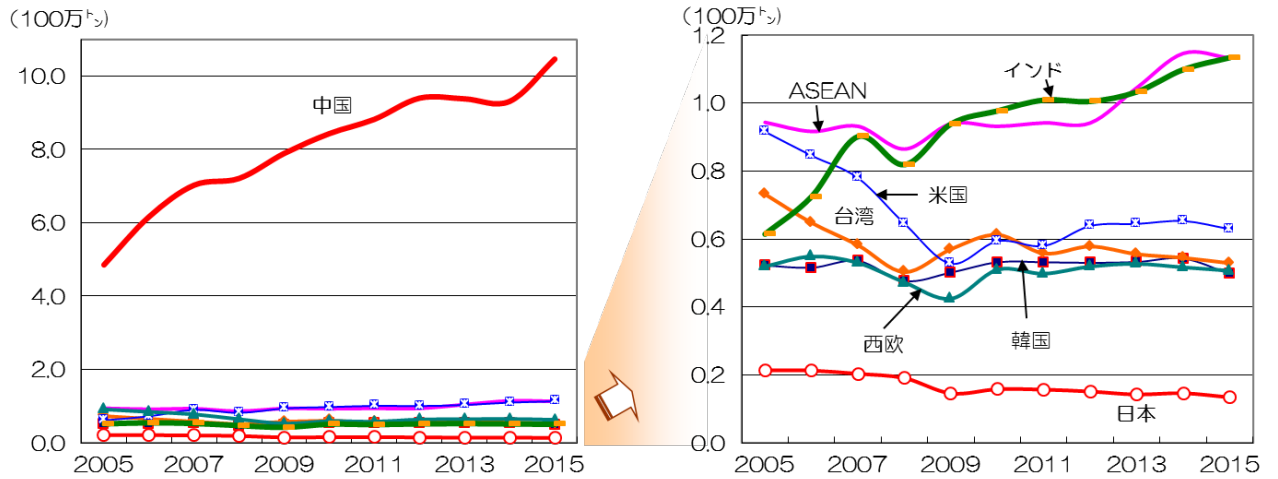
- ポリエステルF：前年比9%増の3,703万トと過去最高を更新した。供給過剰問題が取り上げられる中国は14%増と、生産の増加傾向が継続している。米国は好調な住宅投資にけん引されカーペット用が拡大して2%増となった。一方、台湾は横ばい、日本、韓国、A SEAN、インド、西欧は減少した。

図-5 世界の主要地域別ポリエステルF生産



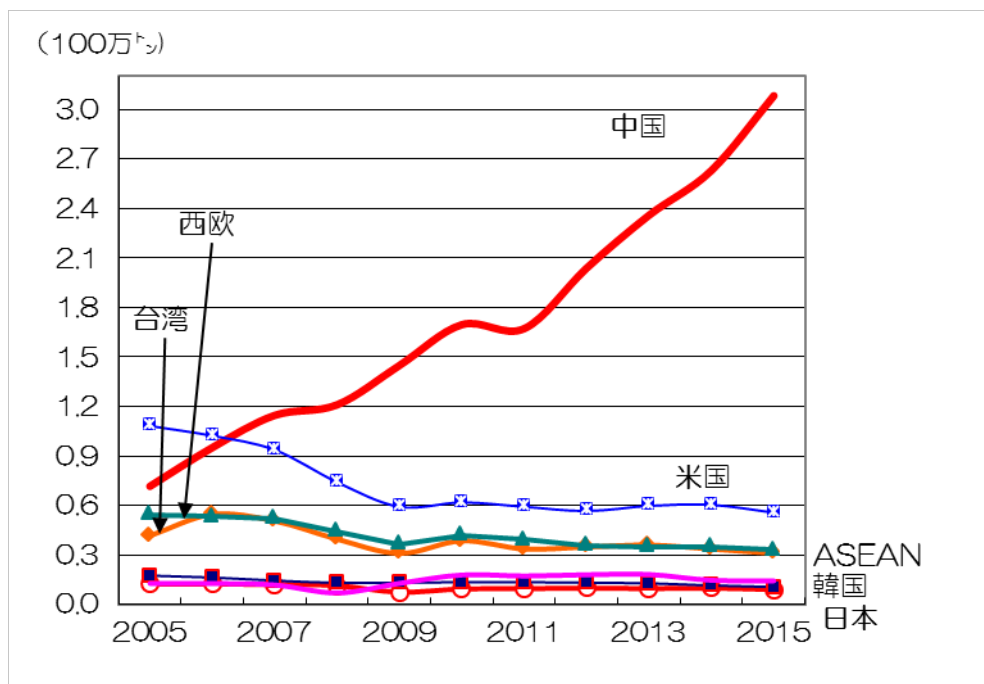
- ポリエステルS：前年比6%増の1,609万ト。中国が12%増、インドが3%増と増加した一方、日本、韓国が8%減と大幅に減少、台湾、米国も3~4%減となった。

図-6 世界の主要地域別ポリエステルS生産



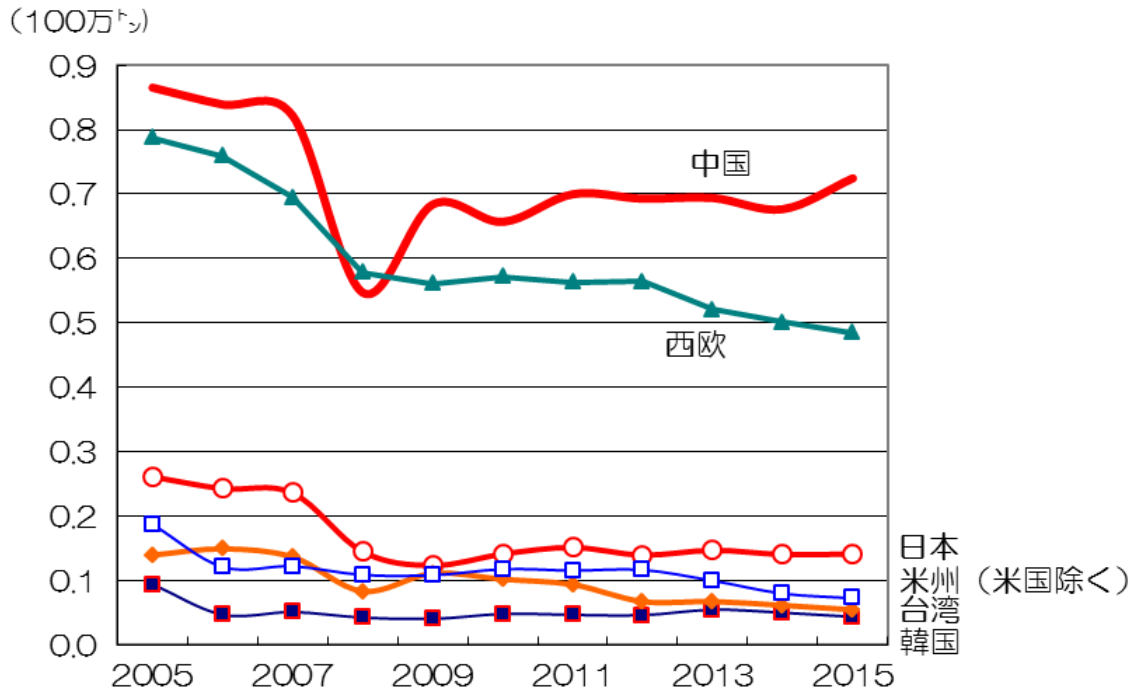
- ナイロン：前年比5%増の505万ト。中国が17%増と大幅に増加した。米国は主力のカーペット用をはじめ産業用、衣料用のいずれも減少し、全体で8%減となった。西欧は5%減、衣料用を中心に産業用も減少した。

図-7 世界の主要地域別ナイロン生産



- アクリルS：前年比横ばいの186万ト。中国が7%増、インドが11%増、日本が1%増と増加したが、西欧が3%減となったほか、生産量は少ないものの韓国、台湾が2桁減となった。

図-8 世界の主要地域別アクリルS生産



3. 日本の化学繊維生産

- 2015年の日本の化学繊維生産は前年比1.6%減の96万ト(オレフィン、アセテートトウを含む)となった模様である。内訳は合繊が2.2%減、セルロース繊維が0.8%増となった。

表-3 日本の主要化学繊維の生産

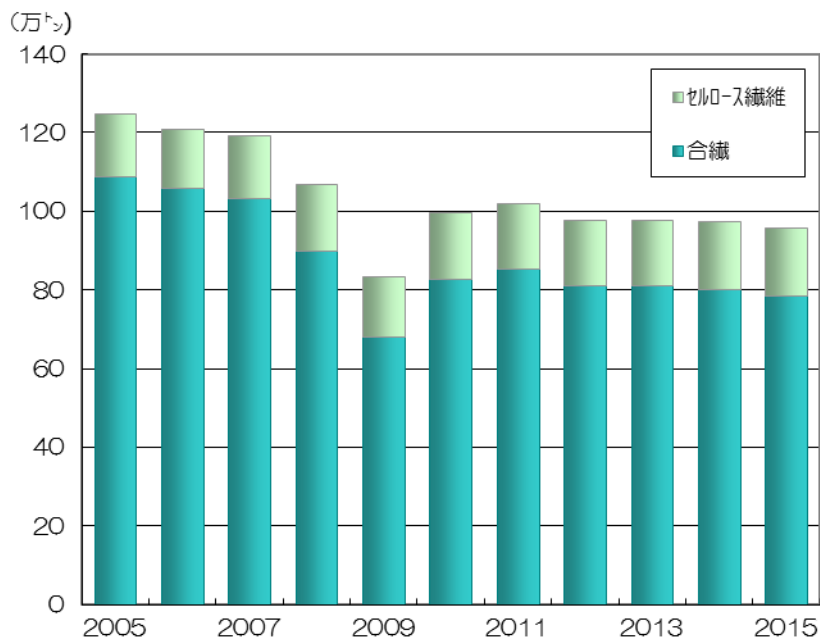
(1000ト)

	2012	2013	2014	2015	15/14%
ポリエステルF	167.0	151.3	135.7	127.7	-5.9
ポリエステルS	151.5	142.8	146.6	134.2	-8.4
ナイロンF	98.1	95.4	98.0	89.5	-8.7
アクリルS	139.9	147.3	140.8	141.5	0.5
ポリプロピレン	120.8	131.5	129.3	133.0	2.9
合繊計	811.4	812.2	804.6	787.1	-2.2
セルロース計	168.7	167.5	171.1	172.6	0.8
化繊計	980.1	979.7	975.7	959.7	-1.6

(出所) 経済産業省 (化繊協会推定を含む)

(注) オレフィン、アセテートトウを含む。

図-9 日本の化学繊維生産推移



- 合成繊維の生産は2.2%減の79万ト。主要品目ではポリエステルFが5.9%減、同Sが8.4%減、ナイロンFが8.7%減といずれも減少した。産業用では自動車向けが生産台数減少の影響を受けたとみられる。アクリルSは中国向け輸出が好調で微増（0.5%増）となった。この他、紙おむつなど衛材用が好調であったポリプロピレンが2.9%増と増加した。
- セルロース繊維の生産は0.8%増の17万トであった。

図-10 日本の主要化合繊生産

